

審査結果の要旨

論文題目「親の保育参画促進におけるコミュニティ形成過程と子育ての心理に対する影響」

学位申請者 尾近 千鶴

本論文は、保育所に子どもが通っている親が主体的に保育の企画・運営に携わる「保育参画」における親の保育参画の仕組みと形成・維持の過程、参画する親同士のコミュニティ形成の過程および、親に対する心理的影響について明らかにすることを目的とした研究である。

本論文ではまず、都市化や地域社会の交流の減少、核家族化や就労する母親の増加などの社会的背景によって、母親を中心に子育ての孤立化や役割負荷の問題、心理的な負担感や育児不安のような心理的なストレスの問題が生じていることを指摘し、さらに、子育てをする親が保育施設に対して求めている支援ニーズ、日本における乳幼児教育と保育の展開と現状、海外における保育参画の実践とその効果などに関し、過去の調査研究に基づいて検討している。

こうした過去の調査研究を踏まえ、上記の研究目的を設定した上で、保育保育参画を実践している一保育所の園長、主任、保育士および、この保育所に子どもを通わせている父母を対象としたインタビュー調査を実施し、その言語データに対して質的分析を行った。

その結果、保育所のスタッフが、保育参画についての説明を行った上で、行事の実施など保育の活動に対する親の参画や、育児に関する相談の機会を設けるなどの働きかけを行い、親の保育への参画を促進していること、親たちが、就労との時間的バランスに苦慮しながらも、保育所と協力して保育の活動に関与するようになること、親同士が協働して保育に携わり、作業の役割分担やアドバイス、継承などを行うと同時に、開示と受容のコミュニケーションを通して関係を築き、相互扶助を行うコミュニティを形成していること、親が育児に関する物理的・心理的な負担や不安感などのストレスを低減させ、子育ての価値観や子どもへの関わりなどの面において成長していること、これらの活動を通して保育の質を高めていることなどが示された。そして、こうした多くの研究知見に基づき、今後の保育参画の課題と提言を行っている。

ただし本研究は、1つの保育所における保育参画の事例を対象として分析を行った研究であり、今後、他の保育所の活動を調査し、研究で得られた知見がどの程度の一般化可能であるのか、保育所や地域などの違いによって、どのような点が異なるのかなど、さらなる検討を行うことが必要である。また、インタビュー対象となった父母は、積極的に保育に参画していたため、そこから得られた情報には、一定の偏りがあると推察される。さらに、保育参画に消極的な態度を持つ父母に関するデータを収集することも必要であろう。

以上のような課題はあるものの、乳幼児教育における保育参画という先駆的な活動について、保育の提供者と保護者という両方の立場にある人々の活動や社会関係、そこで生まれた個々人の心理に関する多くの言語データを収集し、KJ法という質的研究の方法論を適切に用いて分析することによって、保育参画を促進するための具体的な活動内容、保育の効果と課題、父母の社会関係の形成過程や心理的影響などに関する実証的な知見を示したことは、この研究分野において大いに意義ある成果といえ、当該分野の今後の研究に貢献する研究であると考える。

以上の結果から、本論文は学位論文として十分な内容を有するものと審査委員全員の一致で判定された。

したがって、申請者 尾近千鶴は、東海大学博士（文学）の学位を授与されるに値すると判断した。

論文審査委員

主査	文学修士	浅井 千秋	文化社会学部教授（文学研究科コミュニケーション学専攻）
委員	博士（医学）	芳川 玲子	文化社会学部教授（文学研究科コミュニケーション学専攻）
委員	文学修士	菅沼 真樹	文化社会学部准教授（文学研究科コミュニケーション学専攻）
委員	博士（臨床心理学）		
		中島 由宇	文化社会学部講師（文学研究科コミュニケーション学専攻）
委員	学術博士	近藤 卓	日本ウェルネススポーツ大学スポーツプロモーション 学部教授

以上